

津田梅子資料室に行ってきました！！ 2024.5.14.

5月14日、佐倉一里塚有志により、「津田梅子資料室」の見学に行ってきました。一里塚メンバー16名に特別ゲストとして、なんとあの津田仙のひい孫にあたる津田守さんと奥様のヨランダさんがきてくださり、大学内を案内してくれました。津田守さんのおじいさんは、津田仙氏の次男である次郎さん（梅子の弟）だそうです。守さんは、ユーカリが丘にお住まいで、7月に行われる津田梅子関連の記念イベントを一里塚がお手伝いさせていただきご縁で、今回、津田梅子資料室を案内してくれることになりました。

さて、資料室ですが、小平にある津田塾大学のキャンパス内にあります。千葉からはかなり遠いですが、こうした機会はめったにありませんので、とても楽しみです。京成、JRを乗り継ぎ、国分寺駅に到着。ここから西武国分寺線に乗り換え、「鷹の台駅」で下車。玉川上水沿いの新緑の樹々の間の小径を進み、目指すキャンパスに到着しました。



津田塾大小平キャンパス

キャンパスは、武蔵野の緑に囲まれており、芝生の上で語らう女子大生の姿がまぶしく感じられました。資料室は、図書館の2階にあり、貴重な写真の数々と梅子の書簡を含む大量の文書類が展示されていました。ちなみに、津田梅子の生まれた時の名前は「梅」で、「梅子」に改名したのは、38歳の時です。植松三十里（みどり）が書いた「梅と水仙」は、津田仙と梅子の生涯を描いたノンフィクション小説ですが、事前に読んでいたので、実際の写真や手紙などを見ることができ、改めて、梅子の人生の足跡を辿ることができました。6歳からアメリカで暮らし、17歳で帰国した時にはすっかり日本語を忘れており、日本の生活にもついていけなかった梅子。思い通りに行かず、再び学位を取得するためアメリカに留学。その後、幾多の苦労を重ねながら、女子英学塾（現：津田塾大学）を創設する過程などが、数々の展示資料から伺い知ることができました。はるばる千葉からやってきた甲斐がありました。



その後、大学の学生食堂でランチ。見渡す限り、若い女子大生ばかり。ちょっと場違い?? 私がいただいたのは、津田塾大限定メニューの「オムライスと鶏のから揚げ&絶品プリン」のランチ600円、安くてボリュームもあり、おいしくいただきました。



津田塾大限定メニュー

午後は、津田さんの奥様のお友達のお友達に案内してもらって、学内にある梅子の墓所へ。梅子は、小平キャンパスの完成を待たずに亡くなりますが、「できればこの地に眠りたい」との遺書を残しており、その遺志を継ぎ、キャンパス内に墓所が造られたとのこと。その後、梅子たち5人の留学生がアメリカ大陸に到着する朝を描いた絵が学内に飾ってあるということで見学に行きました。その絵は、5人の女子留学生が船の甲板の上から初めてのアメリカ大陸（サンフランシスコ湾）を眺めている絵です。背丈が足りず、手すりによじ登っているのが梅子。小さい体と幼い横顔は、しっかりと前を見据えています。どんな気持ちでアメリカを眺めていたのでしょうか。私にも6歳の孫がいるのですが、この年齢でアメリカに留学するなんて、とても信じられません。



キャンパス内にある津田梅子の墓所



甲板上からアメリカを眺める5人、左から二番目が梅子

帰りに立ち寄った鷹の台駅前のお菓子屋さん。なんと新 5 千円札を形どったサブレを売っていました。さすが、梅子が創設した津田塾大学のキャンパスがある町。おかげさまで、とても有意義な一日を過ごすことができました。案内をしていただいた津田守さん、そして奥様のヨランダさん、ありがとうございました。（報告：伊香賀）



津田梅子のサブレ